

発行人 / 学園町自治会会長・荻野晶子
企画編集 / 学園町自治会広報委員会
編集長 / 浜名 純
投稿・連絡先 / 学園町1丁目14番地31号
電話 / 090-6005-7887

学園町 かわら版

購読無料・各戸配布 / 隔月刊行

113
号

毎月の第1・第3・第5月曜日は
学園町自治会の資源物回収の日。
自治会の収益となりますので、
ぜひご協力ください。

地域とともに 自分で責任を持つ子を育てたい

矢崎慶・南中新校長に聞く

今春、東久留米市立南中学校の新校長に矢崎慶氏（55）が就任しました。野球に打ち込んだ高校時代。大学受験失敗と浪人生活、大学中退と再入学という若き日の挫折、そして36歳で教員採用試験に合格した異色の経歴の持ち主。その体験が、優しく子どもを見つめることに繋がっています。地域のニーズに応えながら、「自分で責任を持つ子に育てたい」という矢崎校長にインタビューしました。

——先生の経歴をお教えください。

矢崎 東京都立大泉高校を卒業して、浪人後、大学に入ったのですが中退し、23歳の時に法政大学文学部に入り直し、27歳になる時卒業しました。しかし、なかなか教員採用試験に受からず、杉並にある佼成学園で、講師として中学、高校生を教えました。高校時代までずっと野球部だったので、佼成学園では野球部の監督も務めました。

3年間講師として勤めた後、川崎市立川崎中学校に臨任教員として採用されました。2年間の勤務後、教員採用試験に合格、正規教員として5年間勤めました。教科は英語です。その後東京の府中市立府中第一中学校に移り、10年間過ごしました。両中学校でも引き続き野球部の指導をやらせていただきました。その後、西東京市立明保中学校で4年間、副校長として勤務しました。

——先生になろうと思ったきっかけはどういうことですか。

矢崎 浪人して入った大学を辞めて人生の目標を見失っていたんです。22、

23歳の頃ですね。浪人を繰り返して大学に入ったけれど、もう野球はできない。半年ほどで大学にはいけなくなり、23歳の時に法政大学文学部に入り直し、27歳になる時卒業しました。しかし、なかなか教員採用試験に受からず、杉並にある佼成学園で、講師として中学、高校生を教えました。高校時代までずっと野球部だったので、佼成学園では野球部の監督も務めました。

その彼が、「教員を目指したらどうか」というのです。僕は「教員なんか目指せるようなレベルの人間ではない。向いていない」と言ったのですが、「お前みたいな奴の方が教員に向いていると思う。お前は昔から後輩にも慕われていたし、そういう奴こそ目指すべきだ」というのです。それで、親友のアドバイスに乗って大学を受けなおそうと思ったのです。

——子どもへの接し方や、教育の仕方などについて、どういうことを心掛けていましたか。

矢崎 ひとつも見落とさない気持ちで



子どもの傍にいました。空き時間もすべて子供のために使いました。自分の学生時代を振り返ると、それなりに先生方にはお世話になっていますが、自分が困った時に訪ねていくような恩師がいたかどうか。私にはいなかったです。だから、逆に自分が教員になったときは、中学生や高校生の時に自分がこうして欲しかったと思っていたことをすべてやろうと思ったのです。

例えば、自分が進路で失敗したので、進路を失敗させないということがありました。こういう考え方をすると進路を狭め、後で絶対苦しくなるとか、世の中の評判や風潮とかに振り回されるのと後悔するというのを自分自身の体験で感じていたので、そういう指導にならないように気を付けていました。そのために、子どもをじっくり見つめていきました。そして、最終的に自分で決めれば、嫌なことが起こった時にも、自分で決めたんだから頑張ろう、ということになるよ、と伝えていきます。——自分で責任を持つ子に育てるために、どんなことをしてきましたか。

矢崎 押し付けることはしません。失敗はいつしてもいい。ただ、同じ失敗はしないように、そして、言い訳はやめようと言ってきました。「間違ったら謝る」ということを自分が率先してやってきました。つまり、自分がミスをした時は、子どもの前でちゃんと頭を下げました。そういう小さなことの積み重ねが大事ではないでしょうか。

——新校長としての抱負や学園町の印象をお聞きます。

矢崎 地域の方と生徒と先生方が目指すものを実現したいと思っています。自分が主体的に発信するのはいいのですが、独りよがりではなく周りのニーズに応えたい。先生方がこうしたいと思う、子どもたちがこういことを望んでいて、地域の保護者や住民の方たちがこういうふうになってほしいと思っていること、それを感じ取れる感性をもった校長になりたいですね。

学園町は、新しい宅地造成が進んでいるようですが、区部をちよつと外れただけでもこんなに落ち着いた場所があるんだなと感じました。文部科学省による開かれた教育課程というものが、今年度はコミュニティスクールがあり、今年度はコミュニティスクールの取り組みを始めます。これは、地域の人たちと協力して、生徒たちが地域の一員としての意識を持ち、そして成長していくことを目指すものです。学校と地域が一体となって子どもを育てるような、いわば、「学校区」のようなものにしていきたいと思っています。この学校で校長職をスタートできる幸運をかみしめています。

「屋根より高い木がある町」 学園町公式HPを開設

町の今と未来を伝える

学園町自治会では、このほど学園町公式ホームページを開設しました。「屋根より高い木がある町」をキャッチコピーに、緑豊かな環境を維持し、住む人たちがお互いを理解し合えるコミュニティを醸成していくことを目指しています。

学園町の魅力と想いを多くの方々に知ってもらうと共に、持続可能なまちづくりの一助になればという願いを込めています。

ホームページは、「お知らせ」「学園町について」「自治会について」「コラム」などから構成されており、「学園町について」では、学園町憲章の説明や、学園町の特色、自由学園と学園町の繋がりや歴史、自治会運営委員へのインタビューなどが掲載されています。

また、コラムではこれまで発行された「学園町かわら版」が紹介されています。特筆されるのは、「お住まいをお考えの方へ」と「不動産、建設会社の方へ」のコーナーを設けていることで、建設に当たっては学園町憲章を理解し、環境維持のために協力してくださることを呼びかけています。

このホームページの製作は、島根県松江市で、ウェブサイトのプログラミングからデザインまで一切を手がける「(株)noto(ノト)」(佐々木哲平社長)に依頼しました。さまざまな情報を発信していくので、皆さんもぜひアクセスしてご覧ください。

荻野晶子自治会会長にお聞きしました。(次号の8月号で、制作



者・佐々木哲平さんの特集インタビューを掲載します)

ホームページを開設しようと思ったのは？

荻野 昔から「学園町にもホームページがあればいいな」と思っていました。そんな中、荒さんが自治会に入られた際に「HPはあった方がいい」と強く勧めてくださり、それがまちづくりプロジェクトの一環として本格的に動き出すきっかけになりました。

情報発信の場として、紙で学園町憲章を配ったり、憲章の看板を立てたりしてきましたが、それだけでは周囲への波及効果が限定的でした。これは、学園町憲章が十分に社会に受け入れられていない、あるいは浸透していない理由の一つだと感じています。「知らないことは守れない」というのが正直なところで、法的拘束力のない憲章は、「守らなくてもよいもの」と受け取られてしまうこともあります。だからこそ、紙以上に広く、効果的に町の理念を伝えら

れる手段が必要だと考えていました。

—— 出来上がるまでに苦労したこと、難しかったことはどんなことですか。

荻野 「町の価値を伝え、学園町憲章の継承と発展に繋がるレバレッジとなるHP」にした

い。その思いが強くなりました。そんなとき、以前、島根県に地方創生で在住した時に知り合った佐々木さんのFacebookでの投稿を見て、「この方なら」と直感的にお願いすることにしました。

「町の価値の見える化」と「そのビジョンをどう伝えるか」という点に苦労しました。そして、コピーとして「屋根より高い木のある町」A Town Where Trees Tower Over Roofs」という言葉

にたどり着きました。高く伸びた木は、長い時間をかけて育ち、守られてきた町の歴史や人の営みの象徴です。この言葉が生まれてから、佐々木さんとのコミュニケーションも一層深まり、方向性はつきりしたように思います。

—— 出来上がった時の感想や思いをお聞かせください。

荻野 完成したホームページを見たとき、「町の価値が目に見える形になった」と感じ、改めて学園町の良さを再認識しました。そして何より、ビジョンを持つてこの

町を分譲した羽仁もと子・吉一夫妻、その思いを引き継ぎながら今日まで町を守ってこられた多くの先人たちに、心からの敬意と感謝の気持ちを持ちました。

—— 最後に今後の抱負を。

荻野 情報発信の手段が多様化する今、ホームページもただ存在するだけでなく、町のビジョンを社会に伝えていくコンテンツの発信基地にしていきたいと考えています。

同時に、町内の方々にとつても「読まれるホームページ」となるよう、親しみやすさや実用性を意識しながら、内容を充実させていきたいと思っています。今後は、この学園町かわら版の浜名編集長にコラムをご担当いただく予定です！皆さん、お楽しみに！

学園町誕生100年 「記念ランチの会」開催

「学園町誕生100周年を祝って、みんなで一緒に食べましょう！」と、5月25日(日)、学園町自治会総会終了後に、しのめ茶寮で、「記念ランチの会」が開かれました。

メニューは、ドライカレー、デザートと飲み物で1食500円。100年にちなんだ用意されたランチは100食。この機会に皆さんと交流したいという住民の方々が集まり、和やかなひと時を過ごしました。



HP製作のためドローンを飛ばす荻野会長と佐々木さん

ハマナホームがオープン 子育て中の方からシニアまで気軽にいづぞ

浜名紹代

1985年春に長岡市から学園町に引っ越してきて、7月に高月内科クリニックの隣にある自宅で育児サークルを始めました。サークルの名前は「赤ちゃんとお遊ぶ会」。40年前のあのころはお金を出してもいく場所のないのが赤ちゃんが高齢者という時代でした。ひとりぼっちで子育てをがんばってきたお母さんたちが毎週1回ここに集まることでいい仲間ができ、「子育てで大変だけど楽しい！」と言ってくれるようになりました。

そして2年半、「まもなく保育園の仕事を復帰するんですけど、保育士としてのこだわりかもしれないのですが、0歳、1歳の子は家庭の延長のようなところで育つのが理想だと思っんです。でもなかなかなくて…」というメンバー



地域の皆様にも協力をお願いできました。その後、補助者を勤めてくれていたわははのOGの西島恵美さんにバトンタッチをして、同じ場所です「浜名家庭保育室」は「にじま家庭的保育

のつぶやきを聞き、「そうだ、私は保育士の資格を持っている、部屋もある、庭もある。発達心理学を学んだことも役にたつかも」ということで、東久留米市の家庭福祉員（通称保育ママ）として登録しました。定員は3人、その後補助者をおくことで定員5人となりました。一方、サークルは年齢の幅も広がったので「わはは」を名乗るようになりました。「母の輪」と「わはは」と楽しく子育てしましょう」の願いを込め、保育室との両輪で地域に開かれた場として活動してきました。毎週会報を出し、1000号まで発行しました。

文集も毎年出し、卒会生も一緒にクリスマス会、お花見、流しそうめんなど楽しい行事もいっぱいありました。春秋にはバザーも開き、

室」の名前に変わり、私は補助者にまわり、小さい子どもたちと元気に日々を重ねてきました。しかしながらいろいろ考えることもあり、丸9年になる2025年3月末日をもって、保育室を閉鎖することになりました。長い間、あたたかく見守ってくださった地域の皆様、ありがとうございました。

4月から保育室としての活動はなくなりしましたが、おもちゃも絵本も庭もあり、幸い私もまだ元気、ということ、毎週火曜日の育児サークルわははの活動は続けます。0歳1歳2歳の子どもをもつ方のさらなる参加をお待ちしています。育休中の方も歓迎です。火曜日以外の日もいつでも自由に遊びにきてください。たいてい私がいて、子育て相談にものります。幼稚園や小学校の子も気軽にきてください。さらにシニアにも気軽に立ち寄ってもらえたらと思っています。ミニ集会やミニ講座も企画してご利用ください。土日可です。

4月には大人の「介護についておしゃべり会」を、5月にはキッズ対象の「科学マジックで遊ぼう」とバザーをやり、画家辺見安子さんの作品展もやりました。6月にもいろいろ企画しています。HPは作っていませんが、スマホでハマナホームを検索するとイベント予定がみられるようになります。人と人が出会う楽しい場になりましたらと思います。こんな

ことをしたい、あんなことをしたい、という声があればいくらでも場所を提供します。土日でもOKです。部屋も本もおもちゃもあります。気楽に集える地域の間として「ハマナホーム」を活用していただければうれしいです。連絡先090・6007・6473（はまなつぐよ）学園町一14-31

花だより④
梅雨の晴れ間のお散歩で
素敵な花に巡り会う
立川まり



春から初夏になってきて、いつの間にか外は若葉から濃い緑で溢れる季節になりました。切り花では季節の花も品種改良や産地を変えて通年で見られるものが多いですが、その季節だけ出てくるものもあります。

芍薬もその一つでとても華やか

でポリウムがあるのに派手過ぎず、とても人気です。残念ながらほんの数週間限定で、この記事が読まれる頃には終わっているかもしれません。

6月はスモークツリーでしょうか。花がふわふわと煙のように広がる枝のものです。グリーンのもの、赤みがかったものなどがあり、ミモザ同様、ドライフラワーなどにもできて近年とても人気です。庭で昨年植えた鉄砲百合が二度目の花を咲かせようとしています。

2つ球根を植えて一年目は1株で5輪ほど咲き、今年はほったらかしだったにもかかわらず、3本出てきてそれぞれ6輪くらい蕾をつけています。

少しずつ膨らむ蕾を見ながら日々咲くのを楽しみにしています。

4〜5月はバラの季節で街に咲くバラを楽しみ、良い香りがするので見まわしたらジャスミンが咲いていたり、小さかったアジサイの花芽があつという間に広がって色をつけ始めたり、晴れた日にお散歩すると木々や草花の変化を感じられ気持ち豊かになれるような気がします。

これからは梅雨も始まりムシムシした日も多くなりますが、晴れた朝夕にお散歩はいいかな（水分的補給をお忘れなく）（フローラルライフ）立川まり 042-423-8646

2025年度自治会総会

「よりよきまち」を目指して

来年度より会費アップへ

学園町自治会の2025年度総会が、5月25日(日)自由学園しのめ茶寮で開かれました。一丁目の小嶋はるかさんが議長に選出され、議事が進行了ました。

まず荻野晶子会長が2024年度の活動を報告。会員数は2025年3月末で623世帯、新入会員は13世帯でした。敬老の日のお祝いとして9月18日に、70歳を迎えた人と77歳以上の人合わせて223名にお赤飯を配りました。2025年4月に小学校に入学した10名の子どもに72色の色鉛筆を贈呈。2024年度中に誕生された3名の赤ちゃんのご家庭にお祝いのカタログギフトを届けました。亡くなった方は5名。学園町に転入した新しい住民の方に小さな鉢植えをプレゼントしていますが、2024年度は17世帯にお渡ししました。

東大大学院都市デザイン研究室で、学園町を研究している玄田悠大氏に「まちづくり」の外部アドバイザーをお願いしていました。が、玄田さんが博士号を取得したのを祝して花束をプレゼントしました。その「まちづくり活動」では、不動産事業者や行政への直接的アプローチ、地区協定、緑地協定など宅園町憲章の実現のためのルー

ルの検討を行ってきました。そして、特筆されるのが、念願の学園町ホームページが開設されたことです。

このほか「安全・防犯防災活動」「広報活動」「募金活動」「資源集
団回収活動」について、担当者か
ら報告がありました。そして、会
計報告と監査報告のあと、2025年度の事業計画と予算案の説明がありました。事業計画の基本方針では、2025年の「学園町誕生100年」を視野に、「入って良かった」と感じてもらえる自治会を目指すことを謳っています。まちづくり活動計画では、「学園町憲章」を実現するために、本年度から「地区計画」の策定を開始するとしています。「学園町憲章を実現するには、地区計画と緑地計画の両方が欠かせません。これらを両立させることで、持続可能な調和のとれた地域づくりを進めていきます」と述べています。学園町誕生100年イベントとして、8月に「夏休みこども教室」種子の世界を旅してみよう、秋にバザー、12月または1月にコンサート、2月に講演会「トランプ政権1年を振り返る」を予定しています。

予算案は、収入が133万円(千

円以下切り捨て）で前年度実績に対し86万円の減額を見込みました。減額は、「住まいのまちなみコンクール」の賞金50万円が終了したことなどによるものです。支出は285万円で収支は152万円の赤字で、このため2025年度末の現預金残高（繰越金残高）は、824万円となります。

こうした予算状況を踏まえ、自治会会則の改正についての提案がありました。第四条の会費について、従来は「各所帯毎に当分の間月当たり１００円とし……」としていたのを「各世帯ごとに当分の間月当たり２００円とし……」と改正するというものです。改訂理由として、過去５年間、会費の改定は行われておらず、月額１００円の会費で自治会運営が維持されてきたが、現状では運営にかかる経費が増加しており、これまでの会費では賄いきれなくなつたことを挙げています。資源回収による報奨金が年々減つていることや、これを補うために東京都からの助成金や各種賞金の獲得に努めてきたが、それにも限界があり、物価上昇も鑑み、来年度（２０２６年度）から月２００円にするという改定を提案したもので満場一致で承認されました。

なお、自治会規約で役員の任期は２年と定められており、現会長は昨年の総会で選出されていることから、引き続き荻野氏が会長を務めることになりました。

おしらせ

《南部地域センター》

※各イベント問い合わせは南部地域
センター（指定管理者（株）セイ
ウン） ☎ 042-451-2021
Mail [higashikurume_nanbu@
s-seiun.co.jp](mailto:higashikurume_nanbu@s-seiun.co.jp)

★「シニアヨーガ」

ヨーガを始めるのに年齢や性別は
 関係ありません。今の自分を受け入
 れ、自分のヨガを見つけよう。
 ・4月11日(金)・4月25日(金)
 ・5月09日(金)・5月23日(金)
 1部 10:00～11:00
 2部 11:30～12:30
 ・会場：2階和室
 ・定員：各回6名
 ・参加費：700円(当日払い)
 ・対象：65歳以上 男性も歓迎！
 ・持ち物：ヨガマット・水分補給
 動きやすい服装・厚手のバスタオル、汗拭きタオル
 ・講師：ヨガインストラクター
 AZUSA

★お宝いっぱい！「まあぶるミニ

地域の皆様よりご提供いただいた
洋服・食器類・雑貨・書籍等をお
手頃価格で販売します。ぜひお越
しください。掘り出し物がきっと
みつかるよ！バザーの収益は、全
額当障碍者施設利用の工賃として
活用させていただきます。
・4月22日(火)・5月27日

(火)13:30～15:00
・会場：南部地域センター
・問合せ：(社福) すぎのこ まあ
の会 ☎：042-473-5896
★「フラワーアレンジメント講座」
・4月27日(日) 14:00～16:00
・会場：地区センター調理集会室
・定員：12名
・参加費：1,000円(材料費)
・持ち物：持ち帰り用袋・タオル・
ハサミ・カッターナイフ
★「バクさんとうたおう！」
・4月27日(日)
開場：13:15 開演 13:30～
・会場：講習室
・定員 60名
参加費 500円
★「なんぶ朝市」開店
・5月4日(日)・6月1日(日)
9:30～11:30
(売り切れ次第閉店！早めにどうぞ！)
・会場：南部地域センター
・協力：なんぶ朝市事務局
★「介護予防・きくちゃんの脳トレ体操」
レクレーション介護士による脳トレ
と体操でフレイルを予防しよう！
・5月4日(日)・6月1日(日)
10:00～12:00
・会場：地区センター集会室
・定員：20名
・参加費：300円

・持ち物：タオル・筆記用具
★「なんぶ おしゃべりサロン」
ざっくりぼろんおしゃべりで心の
コリをほぐしましょう！
どなたでもご自由に参加下さい。
・5月4日(日)
・6月1日(日)
13:30～15:30 音楽室
・参加費 100 円 ・定員 10 名
★「ひばりんフェスタ」
ゴールデンウィークの最終日、
家族みんなで楽しめる 1 日 を！
・5月6日(日)10:00～16:00
・会場：講習室・ピロティ
・内容：ワークショップ・リラク
ゼーション・ピロティフェスタ
など
★ひばりが丘音楽会特別企画
「岩美陽大バリトンリサイタル」
・5月25日(日)
会場 13:30 開演 14:00～講習室
・入場料：1,000 円（全席自由）
・曲 目：Ma rendi pur contento
木兎
Credo in un **D** io crudel
Eri tu che macchiavi 他
・ピアノ：近藤大蔵

《自由学園》

※イベントの問い合わせ先は自由
学園広報自由学園広報本部
TEL : 042-428-2123
e-mail : kh@jiyu.ac.jp
URL : <https://www.jiyu.ac.jp>

詳細・お申し込みは自由園のホームページからお願いします。

■ U12 こども広場

日時：4月19日（土）10:00～13:00
自由学園のキャンパスを使って、家族でのんびりお過ごしください。ワークショップも企画中です！お申込みお待ちしております。

■自由学園幼児生活団幼稚園

●園庭開放
日時：5月19日（月）10:00～11:00（食事付き）
日時：5月29日（木）10:00～11:00

会場：自由

幼児生活団幼稚園入園希望の方
園庭開放を行います。

●入園説明会

日時：5月24日（土）10:00～
11:30（予定）

■自由学園初等部

●児童とつくる学校説明会
日時：5月17日（土）9:30～

11:30

会場：自由学園初等部
自由学園初等部の教育に興味・

関心のあ

●運動会
日時：5月31日（土）9:30～

11:30

会場：自由学園初等部
元氣いっぱいの子供たちが輝く
姿をぜひ見に来てください。